



JCLIFE

2025年
11月号



一般社団法人尾道青年会議所 <http://www.ojc.or.jp/> 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F
TEL: 0848-20-1110 FAX: 0848-20-1112 E-mail: ojc@urban.ne.jp Facebook: <http://www.facebook.com/isojcnw>



10月16日(木)、尾道国際ホテルにて10月例会を開催しました。本例会では、一般社団法人シナジー・ファシリテーション協会の荒堀洋子先生をお招きし、「大人が変われば子どもも変わる」『自分が源泉』に学ぶ大人の在り方」と題してご講演いただきました。

私たちは、家庭や会社、そして青年会議所活動の中で「人を育てる」というテーマと日々向き合っていますが、なかなか思い通りにはいきません。講演では、目の前にあるすべての結果を自分が創っているという立場に立つことで、相手や環境に原因を求める思考から離れ、自分に何ができるのだろうかという視点に切り替える「自分が源泉」の考え方や、子どもや部下との向き合い方、言葉の掛け方について学びました。



10月例会



人の生き方や価値観は、これまでの人生や出逢ってきた人々や育ってきた環境に大きな影響を受けています。だからこそ、私たち自身が良い影響を与えられる大人であること、相手に変わるきっかけを与えられる存在であることが大切であると感じます。

本例会で学んだ「自分が源泉」という考え方を、日々の生活や青年会議所活動に活かしながら、次世代に誇れる大人としての在り方を磨いてまいります。

(記事…未来の宝育委員会 徳岡万里)



10月10日(金)・12日(日)、佐賀市文化会館およびSAGAアリーナにて「第74回全国大会佐賀大会」が開催され、尾道青年会議所からも多くのメンバーが参加しました。

全国からJCMメンバーが一堂に会し、「Plus Ultra」をテーマに、

全国大会



想の先へ」をテーマに、フォーラム・大会式典・卒業式などが盛大に執り行われました。卒業式後は博多に場所を移し、LOMナイトで大いに盛り上がり、博多の夜を満喫しました。



本年度、尾道青年会議所からは10名のメンバーが卒業となります。卒業予定の皆さま、心よりお祝い申し上げます。

本年度も残りわずかとなりましたが、Plus Ultra(さらに向こうへ)の精神で最後まで活動を進めていきましょう。

(記事…宮本豪)



あつまれ たいいけん の森

11.30 (日)

10:00-15:00

尾道市総合福祉センター

住所：尾道市門田町22-5

本町会会 一般社団法人尾道青年会連 (理恵: ydy)

Mail: onomichi.mirai2029@gmail.com

Tel: 0848-20-1110 受付 10:00-16:00

主 催 一般社団法人尾道青年会連

共 催 尾道市役所 尾道市会

体験一覧

★お知らせ★
無知!

プログラムスタート体験会

10:00-10:30 受付 10:30-11:00

カラーアート

11:00-11:30 受付 11:30-12:00

パズル体験

12:00-12:30 受付 12:30-13:00

おしゃべり体験

13:00-13:30 受付 13:30-14:00

おしゃべり体験

14:00-14:30 受付 14:30-15:00

おしゃべり体験

15:00-15:30 受付 15:30-16:00

おしゃべり体験

16:00-16:30 受付 16:30-17:00

おしゃべり体験

17:00-17:30 受付 17:30-18:00

おしゃべり体験

18:00-18:30 受付 18:30-19:00

おしゃべり体験

19:00-19:30 受付 19:30-20:00

おしゃべり体験

20:00-20:30 受付 20:30-21:00

おしゃべり体験

21:00-21:30 受付 21:30-22:00

おしゃべり体験

22:00-22:30 受付 22:30-23:00

おしゃべり体験

23:00-23:30 受付 23:30-24:00

おしゃべり体験

24:00-24:30 受付 24:30-25:00

おしゃべり体験

25:00-25:30 受付 25:30-26:00

おしゃべり体験

26:00-26:30 受付 26:30-27:00

おしゃべり体験

27:00-27:30 受付 27:30-28:00

おしゃべり体験

28:00-28:30 受付 28:30-29:00

おしゃべり体験

29:00-29:30 受付 29:30-30:00

おしゃべり体験

30:00-30:30 受付 30:30-31:00

おしゃべり体験

31:00-31:30 受付 31:30-32:00

おしゃべり体験

32:00-32:30 受付 32:30-33:00

おしゃべり体験

33:00-33:30 受付 33:30-34:00

おしゃべり体験

34:00-34:30 受付 34:30-35:00

おしゃべり体験

35:00-35:30 受付 35:30-36:00

おしゃべり体験

36:00-36:30 受付 36:30-37:00

おしゃべり体験

37:00-37:30 受付 37:30-38:00

おしゃべり体験

38:00-38:30 受付 38:30-39:00

おしゃべり体験

39:00-39:30 受付 39:30-40:00

おしゃべり体験

40:00-40:30 受付 40:30-41:00

おしゃべり体験

41:00-41:30 受付 41:30-42:00

おしゃべり体験

42:00-42:30 受付 42:30-43:00

故 小林和作画伯を 偲ぶ会

11月4日（火）、西國寺にて故小林和作画伯を偲ぶ会が開催され、尾道青年会議所からは23名のメンバーが法要及び小林和作賞授与式並びに講和会に、本年度理事事で参加して参りました。小林画伯の墓所にお参りをした後、尾道市の美術振興に貢献された方に贈られる小林和作賞の授与と、小林和作旧居の活用について尾道空き家再生プロジェクトの取り組みなど身になる講演を拝聴致しました。手塚弘三先輩から和作先生を偲ぶお話しも拝聴でき、尾道の歴史と文化に触れる素晴らしい機会となりました。

（記事：小田康聖）



新旧 KKK

10月25日（土）、三原国際ホテルにて2025年度・2026年度合同の広島ブロック協議会新旧KKKが開催され、当LOMから新旧事務局および出向者を含む多くのメンバーが参加しました。2025年度第6回KKKでは、徳永委員長幹事より広島ブロックアカデミー等の報告上程が行われ、1年間の集大成として次年度へとつながる内容となりました。続く2026年度第1回では、



小川幹哉委員長幹事よりブロック野球大会などの委員会事業説明が行われました。合同懇親会では余興もあり、ブロック役員団の絆や次年度理事長予定者の力強さを感じる場となりました。出向を通じて広島県内他LOMとの貴重な交流を深める有意義な機会となりました。



（記事：2026年度セクレタリー予定者 濱本義武）



卒業生スピーチ



皆さん、こんばんは。
本日はこのような素晴らしい場で卒業スピーチの機会をいただき、心より感謝申し上げます。

私が尾道青年会議所に入会したのは、ちょうど5年前。新型コロナウイルスが世の中を大きく変えていた時期でした。きっかけは、小学校からの友人である岡本大輔君。

小学校を卒業してからは長く会うこともなかったのですが、僕がゴルフを始めた頃、偶然にも打ちっ放しで20年ぶりに再会しました。「今度ゴルフ行こうや」と誘われて、ゴルフ場行ったら、突然「この紙にサインして」と言われ……それがまさかの仮入会申込書（笑）。さらに写真を二枚撮られて、「気づけばJIC入会してました」という、まさにゴルフから人生が変わった瞬間でした。

そんな勢いで入会した僕ですが、気づけばもう5年。思い返すと、本当にあっという間でした。正直、胸を張って言えるような実績は何もありません。合同委員会に出たのも今年が初めてで、去年なんてほとんど顔を出していません。「何もしていない」と言われても仕方ないかもしれませんが、

けれど最近になって、心の底から思うことがあります。——もって何かしておけばよかったなと。

仲間の活躍を見たり、先輩方に「お前、こういう時だけ来るよな」と冗談まじりに言われて、最初は笑っていました。でも、だんだんそれが本気に聞こえてきて、「ああ、自分はまだ何も残せていないな」と感じるようになりました。

僕は人前で話すのも得意ではないし、言われたこともすぐ忘れるタイプです。そして、人の名前を覚えるのも苦手です。正直、今ここに在る現役メンバーの中にも「名前知らない方」：結構います(笑)。でもそれは、僕がそれだけ関わってなかったということ。

だからこそ、残りの時間は、今まで話したことのない人ともきちんと話して、この「仲間」という財産を、最後までしっかりと感じながら卒業したいと思っています。

僕は小学生の頃から大学までサッカーをしていました。でも実は、団体行動があまり得意ではなく(笑)、最初はJ.Cの活動も正直しんどかったです。ただ、不思議なことに、時間が経つにつれて、この「団体の一員であること」を誇りに感じるようになりました。

それはきつと、尾道J.Cの仲間が本気で人を思い、本気で地域を考え、そして何より、どんな時も笑顔を絶やさない人たちだったからだと思います。

尾道というまちは、海と山に囲まれ、穏やかで温かい。でも、それ以上に温かいのは、やっぱり「人」なんですよね。このまちには、助け合い、支え合う心があります。J.Cの活動を通して、僕はその力の尊さを学びました。

「地域は、人でできている。」この言葉を、僕はJ.Cで過ごした5年間を通じて、実感しました。このまちの未来をつくるのは、誰か特別な人ではなく、今ここに在る「私たち自身」なんだと。

残りわずかですが、まだ全国大会も、そして僕らの事業もあります。最

後まで関わり抜いて、みんなの名前を覚えて、笑顔で卒業の日を迎えたいと思います。

最後に、尾道J.Cで出会った仲間、先輩方、そしてこの温かいまちに、心から感謝を伝えたいです。この5年間は、僕の人生においてかけがえのない時間でした。これからも尾道の一員として、J.Cの仲間として、皆さんと笑顔でつながっていききたいと思っています。本当にありがとうございます。



森田 洋一郎

今日はこのような場をご用意いただき、ありがとうございます。順を追ってお話をさせていただきます。

1年目は幹事として小西さんの委員会に配属されました。今でも大好きな小西さんに右も左も分からないJ.Cのことを教わり、高升さんや、中島さん、大本さんに松本さん、亀田くん、J.Cのこと、長く離れていた尾道のことを改めて教えていただき、今でも困ったときはこの時の先輩方に相談に乗ってもらっています。ただ当時は仕事もまだ毎日が勉強の状況で、毎日夜中まで仕事をしていました。夜中の3時半になると会計システム

の更新がかかるので、そこまで仕事をし、そこから1時間ログイン出来なくなるので椅子を並べて仮眠を取る。そして朝5時や6時に体が痛くて目が覚め、家に戻ってシャワーを浴びて、また会社に戻る、そんな生活を繰り返していました。真つ暗な時間

に、あまりの灯のない新浜のオフィスで一人作業をしていると、「今尾道で働いているのは、僕だけなんじゃないか」といった気分になり、辛い日々でした。そんな時、J.Cに行くと「平日ゴルフに行ってきた」「どここの委員会は1週間旅行に行ってきた」という話を聞かされるので、正直J.Cのメンバーが苦手でした。しかし、今でも強く印象に残っているのがその年の卒業予定者の先輩の話です。とても破天荒な方で、どんな困難にも弱音を吐くところが想像できないような先輩だったのですが「昔は毎日夜中まで働いても仕事が終わらず、遊びに行けなかった。夜中に職場で一人で仕事をしていたと、自分は一生こうやって働かなきゃいけないのか、という気がしてぼろぼろ涙が出てきた」と話してくれました。その時に、今はみんな楽しくそうに見えるけど、どのJ.Cのメンバーも、それぞれ苦勞の時期を乗り越えて今があるんだなと気付かされました。それを知ただけで、J.Cに入った意味があったと思っています。

2年目は吉田雄太実行委員長、加藤雅崇副実行委員長の下、初めて大きな事業の準備から携わる経験をさせていただきました。いつもニコニコした柔らかい風貌からは想像もつかないほどなんでも飄々とこなす村上康さん、三言二言が核心を突く、頼れる先輩馬原さん、委員会が停滞すると先陣をきつてアイデアを出してくれる水野君と、本番に強い男前な小迫さん、同年同期で今では一番仲良くさせてもらっている中川くん、そしてその後めきと頭角を現すこととなる幹事の向井君と福本君で、一番委員会が多い委員会だったと思います。楽しかったです。

3年目は藤田委員長の総務広報委員会、一番印象に残っているのは卒業予定者だった大池さんです。大池さんは自宅の一角の小屋を委員会用に開放してくれていたのですが、とにかく周囲の人間を楽しませてあげたいという方で、委員会のためにメンバーが楽しめるように色々な準備をしてくれていたのも驚いたのですが、なにより勉強になったのは、通常委員会では卒業予定者にどうやって最後の年を楽しんでもらえるか頭を捻るものですが、大池さんは「どこどこに行ってみないなあ」「あれが食べてみたいなあ」といったお願いをしてくるんですね。そしてこのお願いが実はどれも卒業予定者のワガママではなく、これだったら委員会メンバーみんなが楽しめるんじゃないかというアクティビティにメンバーを巻き込んであげる為の言葉だったんです。そして行った先々でみんなが楽しめるように率先して準備や面倒なことをやってくれて、終わった後には、楽しかったーみんな俺のワガママに付き合ってくれてありがとうーと労ってあげる。私はこんなお洒落な気遣いの仕方があるのかと心から感動しました。この年はそのほかにもスーパードライの中くんやみんなの兄貴高升さん、子供が産まれたばかりなのに頑張っていた沼尾君と、毎回の委員会が楽しみなよう

な1年間でした。

委員長の小田です。つい先日、私が幹事年の時の高垣委員会で今年の卒業生を祝う会を開催しまして、久しぶりに先輩方にお会いすることもできました。久しぶりなのに久しぶり感がないというかアットホームな委員会で、ほんとと素敵な委員会だったんだと改めて実感しました。2年も経つと委員長が元気になって、心底安心致した一日でした。私の委員長生活も残り2か月となりましたが、メンバーの皆に同じように想ってもらえる委員会運営を凡事徹底していこうと思います。(記事：小田 康聖)

編集
後記



続いて4年目は初めて理事の立場になり、大変な事も多くありましたが、印象に残っているのが当時の加藤雄大事務です。私が初上程で緊張するという話をしていると、「上程虎の巻」というファイルを送ってくれて、その中にはたくさんのおアドバイスやメッセージが書いてあるんですね。自分もこんな先輩、上司になりたいと思いました。そして理事になると人前で話をする事が多くなるんですが、私は人前で喋るのが大の苦手で、毎回笑いも取って締めるところは締めて、スマートにこなせる雄大くんを、そういう才能のある人なんだな、くらいに思っていました。だけどある日懇親会の準備のための集合時間よりだいぶ前に到着してしまい、会場をのぞいてみると、そこには人のいない会場で二人で司会、挨拶の練習をしている雄大くんの姿がありました。カッコいいですよ。

JCの集まりで人前で話す人たちは、傍から見るとすごく簡単にこなしているように見えるんですが、裏ではしっかり練習しています。いつもピシッと挨拶されている岡本大輔さんですら、しっかりと文章を書き起こしてたくさん練習していますからね。だから若いメンバーも、今は人前で話すのが苦手でも大丈夫。練習すれば、絶対にできるようになりますから。

そして副委員長として迎えた今年の高橋諒祐委員会。正直、まだ所管業務の半分も終わっていません。でも、高橋委員長は寝る間を惜しんで、彼が何よりも大切にしている家族との時間もとらずに本事業の準備を進めています。メンバーも揃っています。間違いなく良い一年だったと思える二年になると確信しています。

以上が私がJCで過ごした日々の振り返りです。やはり終わりが近付くにつれ寂しい気持ちが増えますし、今まで出会ったメンバーの全員と、もつとじっくり話をしてみたかったというのが正直な気持ちです。それくらい尾道JCには魅力的な人間が揃っていると思いますし、

誇張無しに嫌いだと思うような人間は一人もいませんでした。自分の故郷である尾道を好きになれたのはJCのおかげです。JCに誘ってくれた暢玄さん、横山大二郎さんに感謝を伝えさせていただき、私の卒業生スピーチを終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。



藤田 祐輔

皆さんこんばんは。つい自分の卒業スピーチの順番が来てしまいました。これまでのJCの経験や感じたことを、少し皆さんにお伝えできればと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

入会して1年目は高升先輩の拡大研修委員会に配属されました。この委員会には幹事として配属されたんですが、本当によく飲みに行く委員会でした。委員会メンバーの皆さん本当に、パワーがあつて、気づいたら朝ということもしょっちゅうで、当時32歳くらいでしたが今振り返ると、よく体がもつていたなと思います。

高升先輩は、見た目も男前で、中身も漢気のある頼れる方。ただし、パソコンが少し苦手な資料作りをよくお手伝いさせていただきました。でもその分、人への気遣いや情熱がすごくて、本当に尊敬できる委員長でした。

博多への委員会旅行は今でも印象に残っています。みんなでワイワイ楽しみなながらも、言えないようなハプニングもあり、委員会としての絆がより強くなった旅でした。みんなで本当によく笑ったなと思います。これから委員会旅行などに行く皆さんも、どうか仲間との時間を大切にしてください。そして酔っぱらった委員長がいたらちゃんと連れて帰ってあげてくださいね。

次は社会開発室 組織活性化委員会。これ

は大前先輩の委員会です。この年も、いろんな学びがありました。大前先輩は、「これをやりたい」「あれをやりたい」と、やりたいことがはっきりあつて、とにかく情熱がある方でした。

事業の構成や流れを一緒に考えながら進めていく中で、僕も多くを学ばせていただきました。また、当時幹事の太池先輩が本当によく顔を出してくれて、委員会はいつも明るく笑いが絶えませんでした。大前先輩がよく言っていた「幹事が出てくる委员会は盛り上がる」その言葉どおり、楽しい雰囲気の中で活動できたと思います。

次の年はセクレタリー。その年は、コロナの影響で活動がほとんどできませんでした。京都会議では、加度先輩と高橋建太先輩と前日に前乗りしたんですが、ちよとしたハプニングもありました。加度理事長のカバンを預かっていたんですが、加度さんが携帯をカバンの中に忘れていて、あの広い会場の中で理事長を探し回るといふ事件です。今となつては笑い話ですが、あの時は本気で館内放送を頼もうかと思いましたが、無事に合流できてよかったです。

次は組織活性化委員会、山本理事長の委員会です。山本委員長は本当に素晴らしい委員長でした。この年もコロナで夏期講習は中止になったんですが、「2525プロジェクト」です。2525枚のメッセージ付き写真を集めてラッピングバスにするという事業で、それだけでも大変なのですが、さらに花火も上げることになりました。

最初は50枚くらいしかなく、「本当に集まるのか？」と思っていました。でも山本委員長は、商店街や学校、企業などに積極的に声をかけて、本当に2525枚を集めました。

その行動力と粘り強さには、ただただ感服でした。最後にラッピングバスが完成したときは、心から「やつてよかった」と思いました。あつという間の二年で、この年は本当に楽しかったです。

次は、村橋先輩の総務広報委員会です。この年は委員長が優秀な人で、全部一人です。

やる委員長でした。ですので、僕は委員会メンバーとただただ酒飲んで、楽しく過ごさせていただきました。

そして委員長としての二年。同期委員長にも恵まれて、すごく充実した年になりました。委員長になる前に、いろんな委員長を見てきたんですが、基本的に僕はどの委員会でも楽しく過ごさせてもらいました。ですので、僕が委員長になつてまず最初に思ったのは、やることはしっかりやるけど、まずは委員会を楽しくしようと思つてました。

卒業予定者に太池先輩、高升先輩がいたので、自然と明るく、楽しい雰囲気の中で、自然と思つてます。委員会が楽しくするために、委員長が大変そうなお雰囲気はできるだけ出さないようにしていました。ただ、裏ではいろんな苦労もありましたが、森田くん、水野くん、中くんをはじめとするメンバーにたくさん助けられました。みんながそれぞれ役割を果たしてくれて、本当に感謝しています。

次は事務局局長。この年は自分が活動できない期間もありまして、当時の事務局メンバー、そして、理事の方には大変ご迷惑をお掛けしました。この時も、小林理事長、加藤専務、森田君、セクレタリーの中君、聡汰君に助けていただき大変感謝しています。ありがとうございました。

今年には諒祐君の委員会でも、委員長もよく頑張ってくれています。また、事業が全然終わっていないので、これからまだまだ楽しいことがまだあるんじゃないかと期待しています。

僕は、この会に入つて9年になります。僕が思うのは、やつぱりJCのメンバーはそれぞれ仕事も立場も違うけれど、いつも助け合い、支え合っているということです。尾道JCは、本当に

そんな温かい人たちの集まりだと思っています。

これから入会される方や、これからも活動を続けていく皆さんには、ぜひ時間の許す限り、積極的に参加してほしいと思います。せっかく入ったJCです。楽しんでみん勝ちです。いろんな人と関わる中で、新しい価値観に触れたり、自分の成長を感じられたりする瞬間がきっとあります。

時には大変なこともあります。仲間と一緒を考え、笑い合い、支え合うことで、本音で語り合える関係が生まれると思います。ただ仲がいいだけでなく、遠慮なく言いたいことを言い合える、信頼でつながった関係を築いてほしいです。そして僕のように、楽しいJC生活を送ってもらえたらと思います。これで、僕の卒業スピーチは終わります。ありがとうございます。



山本圭介

皆様こんにちは。はじめてましての人も多いかもしれません。今年は京都会議と、例会に一回出て、おそらく今回で3回目になると思います。

まず山本理事長、事務局の皆様、そしてお忙しい中、これだけたくさんの方に集まってくいただき、またこのような席をご用意していただき、ありがとうございます。人前で話すのは、委員長を5年前にやったときぶりです。久しぶりの登壇で拙いところもあるかと思いますが、温かく見守っていただければ嬉しいです。

今日は、話す内容を何も決めずにきました。ゼロベースでくるのは初めてですが、前の3人が普段あまり出てない僕に、いっぱいしゃべってくれと言わんばかりに場を用意してくださいましたので、重なるところもあるかもしれませんが、印象に残ったことをお話しします。

私はJC在籍11年、現在40歳ですので、20代のうちに入会しました。入会のきっかけは、

海藻(昆布)を使った製品を扱う会社に勤めていることもあり、同業の先輩方と業界の集まりで顔を合わせる機会が多かったことです。

25〜26歳頃からお声がけいっていました。たが、「30歳になつてから」とお願いしていたところ、30歳が近づいた頃に「そろそろいいだろう」と背中を押していただき、当時の拡大委員長と関係の方が会社まで来てくださって、入会を決めました。

仮入会では、夏期講習に初参加しました。中島さんも同期だったのですが、鴨川荘で行われた「貿易ゲーム」では、戦力差のあるチームでどう戦うかを学ぶ内容で、私は資源も道具も少ない側からのスタート。先輩方に「顔が割れていないから」と交渉役に出されたり、裏方の作業を任せられたりと、慌ただしくも可愛がっていただきました。

その後の3分間スピーチでは、初めての場で緊張もあり、決して上手ではありませんでしたが、なんとかやり切れたことが自信になりました。同期の皆さん(岡本くん、中島くん、沼田くん、加藤雄大くん)には、当時は迷惑もかけましたが、今も変わらず仲良くしてくれて本当に感謝しています。

平成28年は幹事の年。会員地域交流委員会、このときJCの楽しさも厳しさも学びました。メンバーも多く、幹事2名体制ですすめました。相方は吉田 雄太さんでした。吉田さんの前向きさと行動力に本当に助けられました。

人前に出るのが得意ではない私にとつては、正直しんどい場面もありましたが、2人で委員会を回したり、仕事の合間に雑談や相談に乗り合ったり、楽しかった思い出が残っています。皆さんも同じ委員会に幹事が複数いるなら、ぜひ仲良く大切にしてください。

当時の委員会は、にぎやかで活気がある一

方、議題が思うように進まず、夜更けまで作業、上程前日に資料を作ることもしばしばありました。今思えば、副理事長の皆さんにはご苦労をおかけしましたが、私たちは、やり切る達成感を得られました。やはり準備は早めが一番、これは身に染みて学んだ教訓です。

2年目は拡大委員会(日暮さんの委員会)でした。内向きな自分には難しいかなと思っていましたが、飲みながら語り合う場も多く、結果的にとても楽しかったです。

初めての全国大会(埼玉)では、移動のバスの中で委員会が始まるという「厳しさ」も体験しました。だからこそ、普段から前倒しで進める大切さを再確認できました。

それから翌年は総務広報委員会へ。気づけばJC生活の内半分は、総務系に配属されていて、「総務大好き人間」として見ていたのではないかもしれませんが、性格的には向いていない自覚もあるのですが、任せてくださった皆さんに感謝しています。

第二次総務委員会(鍋島委員長)では、例会全員出席を目標に掲げ、結果として達成できました。後にも先にも、例会に全て出たのは、この年だけでした。

副会長補佐として広島ブロックを回る機会もいただき、他LOMの例会運営の違いに触れたのは大きな学びでした。拍手の作法や進行、3分間スピーチの有無など、同じJCでも文化の違いがあり、視野が広がりました。

平成31年の「あるべき探求委員会」は、11年の中でも一番波瀾万丈でした。卒業例会と新年宴会が連続するなど、なかなかのハードスケジュールでしたが、皆で力を合わせて乗り切りました。eスポーツを対外事業として構想していたのもこの頃で、結果的に実施はしませんでした。が、今振り返ると、流行の前に先を見据えた良い企画だったと思っています。

令和2年は第二次総務広報委員会の委員

長を拝命しました。コロナ禍で通常通りの運営ができない中、オンライン例会や理事長挨拶の事前収録など、新しい設営に挑戦しました。私は力不足もありましたが、副理事長の大西さん、動画スペシャリストの岡田健吾さんはじめ、多くの方に支えられ、チームの力を強く感じた2年でした。

卒業例会の運営では、卒業生を楽しませることに注力したあまり、OBの方への配慮が不十分とのご指摘もいただき、反省しました。この経験を受けて、服装規定などの厳格化に影響した面もあり、皆さんにはご不便をおかけしましたが、学びとして次に生かしていただけだと思っています。

また、理事会前には、副委員長・関係委員長と事前の打ち合わせを重ね、質問を想定して解消しておくことで、本番の進行が非常にスムーズになったのも大きな気づきでした。

その後は、会社や家庭での大きな転機が重なり、時間の確保が難しい時期が続き、出席がままならないことも増えました。皆さんにはご迷惑をおかけしましたが、昨年は野球だけは全試合出ることができ、楽しく参加できました。実はサッカー部出身なので、実はサッカーの方が得意ですが、野球も大好きです。

顔を合わせる機会が少なかった方も少なくありませんが、今日ここで30分ほどお付き合いくださった皆さんは、私にとつてもう「友達以上」です。街で見かけたら、ぜひ声をかけてください。私からも声をかけます。

11年間を通じて、JC生活は本当に充実していました。最後に、麻生先輩から教わった大切なことを二つ。「付度」と「根回し」です。言い換えれば、「相手を思いやる視点」と「事前の準備」。どんな場面でも、この二つを皆様も大切にしていたいただけたらと思います。長い時間、お付き合いいただきありがとうございました。